



伝統の息吹を感じ、笑顔がつながる夏

—地域と学校が一つになった行事を振り返って—

校長 豊田 由香

蝉時雨が響く夏休みが明け、学校には子どもたちの活気あふれる声が戻ってきました。この夏、子どもたちは事故や怪我もなく、それぞれの地域や家庭で充実した日々を過ごしたと存じます。今年の夏も、地域に伝わる伝統行事や学校の行事を通して、子どもたちの心に残る素晴らしい体験が数多く生まれました。本号では、その中でも特に印象深い「お祭り」「みこし」「盆踊り」の3つのトピックを取り上げ、子どもたちの様子とそこから得られた学びをお伝えいたします。

1. 地域の温かさに触れた「お祭り」

夏休みを彩る一大イベントである地域のお祭りには、多くの児童が参加しました。いつも見慣れた街並みが提灯の明かりに彩られ、非日常の空間に胸を躍らせる子どもたちの姿が見られました。地域の方々と言葉を交わし、露店を巡る中で、自分たちが暮らす地域社会への親しみと誇りを自然と育むことができました。また、多くの人が集まる場所だからこそ、時間を守る、ゴミを持ち帰る、下級生に優しく接するといった公共のマナーや思いやりの心を実践する絶好の機会となりました。

2. 力を合わせ、心を一つにした「みこし」

夏祭りのハイライトとも言える「みこし」の担ぎ手として、子どもたちは地域の皆様に温かく導かれながら参加しました。「わっしょい、わっしょい」という威勢の良いかけ声に合わせ、みんなで呼吸を合わせなければ、重たいみこしを前に進めることはできません。一人ひとりが自分の役割を自覚し、仲間と力を合わせる大切さを、体全体で学びました。肩に食い込む痛みをこらえ、最後までやり遂げた子どもたちの表情は、出発前よりもひとまわり大人びて見えました。この経験で得た「やり抜いた自信」は、これからの学校生活の大きな糧となるはずです。

3. 輪の中心で笑顔が弾けた「盆踊り」

夏の夜空の下、広場を会場にして行われた盆踊りには、保護者や卒業生も多数参加し、世代を超えた交流の輪が広がりました。練習を重ねたお馴染みのリズムに合わせて、浴衣や法被姿で楽しそうに踊る子どもたちの姿は、日本の美しい夏の風物詩そのものでした。老若男女が同じ輪に加わり、手拍子を送り合う空間の中で、子どもたちは地域社会の一員としての安心感と心地よさを実感することができたようです。

「お祭り」「みこし」「盆踊り」という一連の行事を通して培われた「挑戦する心」「協調性」「地域を愛する気持ち」は、教室の授業だけでは得られない貴重な財産です。これらの経験をエネルギーに変え、2学期も学習や行事に全力で取り組んでまいります。

保護者、地域の皆様におかれましては、子どもたちの安全な見守りや温かいご声援をいただき、本当にありがとうございました。今学期も変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

本年の夏に発生いたしました「令和8年熊本地震」ならびに「令和8年8月千葉県豪雨」により被災された皆様、ご家族や関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。相次ぐ自然災害の方々の状況を思うと、深い悲しみと胸が締め付けられる思いです。被災地において不安な日々を過ごされている皆様の安全と、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。